

TA報告(1) 実証会計学 「実証会計学とは何か」

藤井ゼミ サブゼミ
4/26(Fri) @106演習室
京都大学大学院 経済学研究科
博士後期課程 1回生
渡邊 誠士

1

報告内容

1. サブゼミについて
2. 実証会計とは
3. 実証会計の現在
4. 実証会計の基本的な手順
5. レポートと論文の違い
6. 実証モデルと理論モデル
7. サンプル選定の注意
8. ストーリーライン
9. 市場アプローチ
10. 契約アプローチ
11. 両アプローチの融合
12. 共同研究に向けて
13. 課題

2

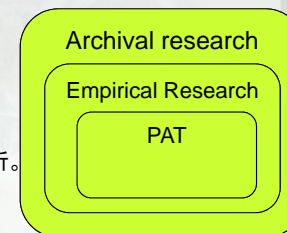
サブゼミについて

- 日時・場所
 - 毎週金曜日 13:00~14:00頃
 - 106演習室
- 教材
 - 藤井先生が執筆途中の実証会計に関するテキスト(藤井先生のwebサイトから各自ダウンロード)
 - 2011年に横山さんが作ってくれた参考資料
 - 別紙参照
- 目的
 1. 後期共同研究に向けて会計学における実証分析の基本的な考え方を習得すること。
 2. 実証分析に必須となる統計処理について理解を深める。
 3. TA渡邊⇒Stataの操作技法の習得

3

実証会計とは

- アーカイバル研究 (Archival Research)
 - 大量の(会計)データを用いて定量的な分析を行う研究手法。
- 実証研究 (Empirical Research)
 - 直接的な観察や経験によって知識を得る方法。
 - デ・フロートの実証サイクル
観察⇒帰納⇒演繹⇒検証⇒評価
- PAT (Positive Accounting Theory)
 - 契約アプローチ(後述)に基づく、統計を用いた定量分析。
 - Watts and Zimmermanによって発展を見た。



- 現状, この3つの意味が混用されており, 我々の共同研究においては主にEmpirical Researchの意で使うことが多いと思われる。

4

実証会計の現在

- 2000年～2005年の北米3大ジャーナルにおける実証研究の占める割合。
 - The Accounting Review (TAR)
 - Journal of Accounting and Economics (JAE)
 - Journal of Accounting Research (JAR)

	掲載論文総数	実証会計論文		
		市場Ap.	契約Ap.	その他
本数 (%)	481 (100.0)	205 (42.6)	126 (26.2)	13 (2.7)

- 2008年 The Accounting Review (日本会計研究学会2010)

	掲載論文総数	実証会計論文		
		市場Ap.	契約Ap.	その他
本数 (%)	45 (100.0)	11 (24.4)	21 (46.7)	5 (11.1)

5

実証会計の現在

- 2011年 Journal of Accounting Research (渡邊)

	掲載論文総数	実証会計論文		
		市場Ap.	契約Ap.	その他
本数 (%)	38 (100.0)	10 (26.3)	12 (31.6)	10 (26.3)

- 分析的研究1本, その他5本

- 2011年 雑誌「会計」(渡邊)

	掲載論文総数	実証会計論文		
		市場Ap.	契約Ap.	その他
本数 (%)	104 (100.0)	3 (2.9)	5 (4.8)	16 (15.4)

- 分析的研究1本, その他79本

6

実証会計の基本的な手順

1. Introduction (はじめに)
 - 問題意識と研究課題, 研究意義の提示。
2. Prior Research (先行研究のサーベイ(レビュー))
 - 同テーマおよび関連テーマの先行研究における現時点での到達点を検討。
 - 「巨人の肩の上に立つ」by Google scholar
3. Modeling and sampling (リサーチデザイン・データ)
 - 仮説の提示。
 - リサーチデザイン, 実証モデル(推定式)を提示。
 - サンプルの内容を提示
4. Result and Interpretation
 - 統計分析の結果とその解釈の提示。
 - 結果のインプリケーション(含意)の提示。
5. Concluding Remarks
 - 結論
 - 研究の貢献と限界

7

レポートと論文の違い

- 一言でいうと「オリジナリティ」の有無。
- ただし, 学部での共同研究でオリジナリティを追及することは逆に危険。
⇒ 時間の制約もあるので, さしあたりは先行研究を元にした改良を目指すことが無難。
- 実証分析では標準化された作業が多く, 先行研究のサーベイが重要。
- 「オリジナリティ」とは？
 - 「学術的貢献」と読み替えるとわかりやすい。
 - 先行研究と国・地域や時代を変えて追試を行うことに学術的貢献となるのか？
 - 先行研究では考慮に入っていない要素を追加することで学術的貢献となるのか？

8

理論モデルと実証モデル

- 実証研究では、「概念的な問題提起」を「定量的な分析」へと落とし込む作業が重要。

(例)

- 「企業のガバナンスが強固である時、時価評価による会計情報が投資家の意思決定に有用な情報を提供する」ことを示そうと考えたとする。
 - 企業のガバナンスの強さ? : 社外取締役の割合, 社外取締役を派遣している金融機関の持ち株比率, 外国人持ち株比率...etc.
 - 時価評価による会計情報? : 時価評価された資産の総額, 時価評価に伴う損益, 時価評価と歴史的原価との差額, ...etc.
 - 投資家の意思決定に有用? : 取引量, 企業価値評価モデルへのあてはまり, ビット・アスク・スプレッド, ...etc.
- 概念的な事象の「操作可能化(Operationalization)」が必要。

9

サンプル選定の注意

1. 条件の等しいサンプルを収集する。
 - 製造業と非製造業は同様に分析は可能か?
 - 業界特有の財務情報のバイアスは分析に影響を与えないか?
 - 時期の異なる財務情報を使用することによって分析に影響は出ないか?
 - 上場市場(東証or大証?, 1部or2部orマザーズ?...etc.)
 2. 分析者の恣意性を排除する。
 - 分析者が自ら選定した企業をサンプルとすることは恣意性を疑われる可能性がある。
 - 東証分類, 日経分類など, 第三者の視点から選定されたグループをサンプルとしておくことが無難。
- 1, 2より, 研究課題の分析に対して「必要十分」のサンプルを選択することが大切。

10

ストーリーライン

- 実証研究に限らず, 研究にはストーリーラインが必要。そのストーリーラインが基づくものが「理論」。
- 例えば先ほどの「企業のガバナンスが強固である時、時価評価による会計情報が投資家の意思決定に有用な情報を提供する」という仮説は, エージェンシー理論に拠っている。
- プリンシパルである株主とエージェンツである経営者という関係に基づけば, 「機会的に行動する経営(エージェンツ)の裁量が大きく働く時価会計に対し, ガバナンスが強く働く環境下では経営者の裁量が制限され, 株主にとって有用な情報が提供される」という理論的背景ができる。
- これを元に結果の解釈, や結果の含意の考察を行うことができる。
- 仮説には必ずそのもととなる理論が存在する。先行研究が用いた理論を理解することで, 追加的な仮説を立てる大きな手掛かりとなる。

11

市場アプローチ

- 企業が公表する会計情報が市場の動きとどのような関係を持っているかを明らかにするもの。
 - ↳ 会計の意思決定支援機能の検証
- イベントスタディ(Event Study)
 - 会計情報公表後, 株価がどのように動くのかを検証(Ball and Brown, 1968)
 - 会計情報公表後, 取引量がどのように変化するのかを検証(Beaver, 1968)
- レリバンススタディ(Relevance Study)
 - 公表された会計情報が, 株価と相関関係を持つか?

12

契約アプローチ

- 会計実務にシステマティックな現象が生じる理由を明らかにするもの。
 - ↳ 会計の意思決定支援機能の検証
- (例) 負債比率の大きい企業の経営者ほど、利益増加型の会計手続きを選択する。
- 全ての利害関係者は自己の効用を最大化するように行動するということを仮定。
 - 株主と経営者のエージェンシー関係を考察
 - 負債の契約条件と経営者の効用
 - 債権者と株主の持分間の争い

13

両アプローチの融合

- 近年では、経営者の行動や恣意性の影響を受ける会計発生高 (accrual) が、マーケットにどのような影響を与えるのかという研究も存在する。
- さらに進めると、経営者の利益調整が株式市場でどのような評価を受けるかという研究。
- 経営者行動に関するエージェンシー理論と資本市場の反応という両方が関係するという意味では両アプローチの視点を持つ研究であると言える。

日本会計研究学会 課題研究委員会編『日本の財務会計研究の棚卸』
≡ 徳賀・大日方編著『財務会計研究の回顧と展望』

14

共同研究にむけて

ごちゃごちゃと言ってきましたが、何はともあれ大切なのは、

「興味あることをテーマにする」
こと。

藤井ゼミの共同研究テーマの選定は、

苛酷なまでに自由です。

15

次回までの課題

- 2011年のAccounting ReviewとJournal of Accounting and Economicsに含まれる、実証研究論文がどのくらいあるのか(市場アプローチと契約アプローチも分類)を調べてみてください。
- Key Word
 - 市場アプローチ: 株価, 取引量, 資本コストなど
 - 契約アプローチ: エージェンシー関係, 報酬など

Accounting Review	Vol.86 Issue 1	
	Vol.86 Issue 2	
	Vol.86 Issue 3	
	Vol.86 Issue 4	
	Vol.86 Issue 5	
	Vol.86 Issue 6	
Journal of Accounting & Economics	Vol.51 Issue 1-2	
	Vol.51 Issue 3	
	Vol.52 Issue 1	
	Vol.52 Issue 2-3	

16